

LESSON SCENERY

教養科目 フィールド科学概論 I

看護学科 1年 大森琴巳

授業風景

フィールド科学概論 I では、実際に田植えや稲刈りをしながら「イネ」が「コメ」になり、私たちの口に入るまでの過程を学びます。「『お米ができるまで』なんて、改めて説明されなくても知っているよ」と思う人もいるかもしれませんが、私たちは授業を通して、新たな知識を身に付けることができました。例えば、苗を育てるための種蒔きでは、ただ蒔くだけではなく、蒔く粉を選別し、苗を育てるのに適した土壌を用意して初めて、種蒔きという作業を行うことができます。この作業がすんだら育苗機を使い、温度調節をしながら田植えができる大きさまで苗を育てます。田に張られている水も、生育段階にあわせて調節しなくてはなりません。イネの生育段階はイネに聞けるのです。その見極めのポイントも授業で知りました。きっと、普段何気なく口に入っているお米が、私たちの想像以上に「科学」から作られていることに気が付くと思います。

この授業では、それぞれの専門分野の先生方によって米作りについてのお話をしてくれ、今年度は岐阜県の研究機関が開発し、岐阜大学も研究協力している小型除草ロボット『アイガモ・ロボット』の公開

実験が授業の中であり、テレビニュース等でも取り上げられました。その折には、両研究所の方からまさに「今」の米作りでの技術開発についてお話を聞くことができました。教室での授業は少し難しく感じる事もあります。身近な題材なので興味を持って受ける事ができます。しかし私たちが授業を受けていて最も楽しかったのは、名前のとおり学内のフィールドに出る授業でした。これはキャンパス内に農場のある岐阜大学ならではの授業でしょうか。

普段あまり気に留めることのない、主食、お米。私たちの口に入る身近な食品について、知識を広げる事ができました。



『アイガモ・ロボット』(写真右下)の公開実験の様子